

福井大学学術交流協定校への派遣留学（交換留学） 月例報告書（6月分）

留学先大学：貿易大学

氏名：小泉春樹

落ち着いた6月。地に足を付けなおせたのが久しぶりで、“落ち着いた”と感じた留学の折り返し地点だった。

その話の前に、6月にあった出来事について触れていく。

先月の月例報告書に書いていた授業のことだが、撃沈してしまった。たぶん単位はないと思われる。教授はやはり良い人で、予定がかぶり数日授業に行けなかった日の翌日、「体調とか大丈夫？最近顔見ないから心配したよ。」とわざわざ僕の席まで来て声をかけてくれるような人だった。しかし授業が難しい。経済学部ならば知ってて当たり前なのかもしれない難しいグラフがたまに出てくる。さっぱりついていけない。その他のパートは、面白い。もともと興味があった分野だけに、どんどん出てくる新しい知識が嬉しくてたまらなかった。とはいえ、5月に意気込んでいたにもかかわらず、半ばリタイヤのような形でこの授業は終わってしまった。授業って、友達一人いるかいらないかでその空間がまるで違うように思う。春学期はほぼ単位のない形で終わってしまった。それについて気に病んでいるということはないが、授業をばっちり頑張り切れなかったのが悔しいから、秋学期に絶対リベンジしようと思う。

そして学外での活動。

またも名前が出てくるVJSC（越日学生会議：詳細については4月分月例報告書に記載）の活動に今月もまた参加していた。6月の頭に1泊2日で、ハノイ郊外へホームステイをしに行き、ベトナムの学生15人（彼らはみなVJSCのメンバー）ほどと一緒にご飯を食べたりプールに入ったりゲームをしたり朝日を見に行ったりと、濃い2日間を過ごした。一日目の夕食の時、度数40%はあろうかというベトナムのお酒を飲み過ぎたため、一人だけ早めのベッドインをしたのもいい思い出である。「Haruki!」と、ただ名前を呼んでもらえるそのことだけで、小さな幸せは味わえるものだと思う。

その他、大きな出来事は2つ。

はるき食堂Cooking Eventは、開催の前日に急にキャンセルになった。後援のNGOのメンバーに聞くと、クッキングスタジオの都合が合わなくなってしまった、とのことだったが、きっと宣伝・広告不足で人が集まらなかったのだと思う。イベント自体の準備がばっちりだっただけに、とても残念であった。人を呼ぶことや、場所をとることを完全に任せていたのも、悪かったかもしれない。準備期間、参加応募期間をもっと長めにとるよう伝

えればよかった。できることなら、この料理イベントは秋にでもまたリベンジしたいので、次回大成功に終わるよう最善の努力を忘れないようにしたい。

そしてもう一つは、今月の来越者の方についてだ。会いに来てくれた人、ということである。6月20日ごろに福井大学からレーナー先生が来てくれ、その1週間後に現在マカオに留学中の松岡さんと坂井さんが来てくれた。レーナー先生は、ホーチミンで仕事を終えた後、わざわざハノイまで来てくれたようだった。1年生の初めから、レーナー先生には助言担任をしていただいております、普段の授業から、悩み過ぎて大学をしばらく休んだ時、そして留学中と、ずっとお世話になっている。会えたのは2日間であったが、“福井大学国際地域学部”というのは自分にとってとても落ち着く居場所なんだと改めて感じた。寂しさを感じる間もなく、次はGCSの友達の来訪。5日間、ハノイ到着から空港へ戻るまで、しっかり案内しつくした。以前月例報告書に書いたかもしれないが、数カ月前からハノイ観光のためのウェブサイトを作っていて、そのためにハノイを練り歩きまわっていたのだが、それがここで役に立った。二人との観光についてはあまり触れないが、二人ともベトナムを満喫してくれたのではないかなと思う。二人と話すのは半年ぶりだったので、留学中の積もり積もった話をするのは楽しかった。久々に「遊んだ！」って思えた5日間であった。

以上が今月の主な出来事である。

最後に、冒頭の話に少し戻って今月の月例報告書を綴じようと思う。

大学に入ってから、ずっと焦っている自分がいた。生き急いでいる、ともいえる。自分の夢を考えると、それがでかすぎる故に何をしても全く前へ進んでいない気がしてしかたなかった。そしてもう一つ、高3の時の失敗と後悔が今もまだ胸に刺さっていて、それを取り払うためにもがいていたから、いつも追い詰められていたように感じていた。ただただ、「結果を出さなきゃ」と。

今でも、その焦りや不安や後悔が消え去ったわけではないが、3年経ってやっと、それがちゃんとエネルギーに変わり始めた気がしている。絶対に叶える予定の夢は、相変わらず空の彼方。だけれど、前よりも前にずんずん進んでいける気がしている。

そして今は、また本気になれるものと絶賛格闘中である。

趣味で1年半ほど前からOPENしていた「はるき食堂」が、数名の仲間が集まったことにより本当に“お店”に変わっていき始めたのだ。そしてここでの取り組みもまた、夢を叶えるための一つのステップなのである。

はるき食堂は、自分の家で開いているお店で、いつでもだれでも来れる。メニューはパスタがメイン。一応韓国料理と和食も少しやっている。開いた理由は単純で、今の自分でもできる、もっと誰かの幸せをつくる方法を考えた時に、そこにたどり着いたのだ。料理はきつととびきり美味しいわけじゃないが、誰かにとって居心地がいいと思える場所をつくれたら、と、それだけだった。お店を開いてから1年ほど、週に一組いるかいらないかくらいのペースで誰かが来てくれていた。金額は原価代だけでやっていた。その間には、他でバイト3つしていたり、学外のボランティア仲間に借金したりもあったが、なんだかんだ続いていた。そして今年に入ってから、決めた。はるき食堂のメニューは全部無料にしよう、と。お金が欲しくてやってるわけじゃない、みんなが笑えたりちょっと元気を出せるような場所をつくれたらいい。もちろん、その“みんな”がもっと増えるようにするためにはお金をこのお店で最大限生み出し、どんどん回していく必要がある。ということで、“お金のいらない、温もりのためのレストラン”を成功させるために現在奮闘している。ふとしたことから、Webデザイナー、建築系デザイナー、経営戦略担当の仲間が集まり、動き始めることができた。友達や、友達の友達が協力してくれたのだ。夢までの一つのステップとして、絶対に踏み越えて、最後の夢を叶えていく。

とは言いつつも、まずは提出書類をしっかりと出すことから夢を叶えなければならない。